

執筆者紹介

所澤新一郎 しよざわしんいちろう 本研究所客員研究員・共同通信社編集局気象・災害取材チーム長
大矢根 淳 おおやね じゅん 本学人間科学部教授、本研究所所長

〈編集後記〉

No. 708 は、所澤新一郎客員研究員と大矢根淳所員による貴重な成果（の一部）を掲載する。本稿は、東日本大震災の被災地である石巻市に執筆者（たち）自身が赴き実施した、その復興を推し進めてきた当事者を対象とする聞き取り調査の記録をまとめたものである。本稿を含む一連の研究の中心的な課題は、被災地での生活再建・復興がどのように進捗しているのか、当事者たちの証言を通じて浮き彫りにすることにある。本稿は、2017 年の研究グループの発足から、若干の構成メンバーの変化はあったものの、2022 年の現在に至るまで幾重にも積み重ねられてきた成果の一部であり、その第 4 部にあたる。東日本大震災の「復興」事象に焦点をあて、聞き取り調査を通じてローカルで地道に続けられている復興への取り組み・現実の過程を発掘・表象してきたこの壮大な作業・研究は、そこでしか触れることの出来ない数多くの聞き取り調査を柱としているというだけでも、まずは貴重というほかない。

本稿に掲載される 2021 年度のインタビューは、過年度の 2017-19 年度に行われたものから丸一年以上を挟んで実施されたものである。このブランクの要因は言うまでもなくコロナ禍であり、それゆえにコロナ禍との対峙、それへの対応を含む、当事者にしか知りえない最近の活動事情が明らかとなる内容となっている。本稿では、精力的な活動のあり方とそれを推し進める当事者たちの姿や思いがいきいきと描かれると同時に、現在も多くの課題が残されている現実が浮き彫りになる。

圧倒的な現実を伝える重厚かつ貴重な成果に対し、余計な雑文は不要と思われる。何より手にとって読んでいただきたい。すでに本月報のバックナンバーに収められているコロナ禍前のインタビューと比較することも興味深いと考える。 (M)

2022 年 6 月 20 日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 大矢根 淳

製作 株式会社グラフィカ・ウエマツ

新宿区下落合 4-21-19 目白 LK ビル 3F 電話 (03)6915-3835
